

臨床研修へのポートフォリオの導入

大山 篤^{1, 3)}, 清水 チエ¹⁾, 大原 里子¹⁾, 新田 浩²⁾
荒木 孝二³⁾, 俣木 志朗^{1, 2)}

Introduction of portfolio as daily records of clinical training

Ohyama A, Shimizu C, Ohara S, Nitta H, Araki K, Mataki S

¹⁾ 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科総合診療部

²⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 全人的医療開発学系専攻 包括診療歯科学講座 歯科医療行動科学分野

³⁾ 東京医科歯科大学 医歯学教育システム研究センター

キーワード：ポートフォリオ、臨床研修、特性要因図

はじめに

ポートフォリオが現在、医学・歯学における臨床教育に活用されてきている。ポートフォリオとはもともと書類を綴じこむ書類入れのことであったが、現在は芸術家が自分の作品をまとめたもの、投資家の保有証券のリスト、小学校・中学校の総合的な学習の記録を示す言葉として広く認知されている^{1)~4)}。私をはじめポートフォリオという言葉を知ったのも総合的な学習に関する本を通じてであった。臨床研修へ参考になるかもしれないと思い、総合的な学習についての本をamazon.co.jpで検索していたときに「こうだったのか!! ポートフォリオ 思考スキルと評価手法」という本を見つけた⁴⁾。実際に購入して読んでみると、臨床研修に活用した場合、1. 研修歯科医が自分の研修目標を常に明確にでき、その達成度について自己評価が行えること、2. 個々の研修歯科医が受けてきた臨床研修のプロセスと取り組

み方が明らかになること、3. 指導歯科医が個々の研修歯科医のポートフォリオを見ることにより、研修歯科医に合ったオーダーメイドの研修を考えられること、等の利点があるように思われた。特に研修目標がはっきり決まっている研修歯科医にとって、ポートフォリオが指導歯科医とのコミュニケーションを円滑にし、より研修歯科医自身の希望が研修に反映できるのではないかという期待もあった。

インターネットで医療関係でのポートフォリオ活用法も検索してみると、すでに「鈴木敏恵の未来教育」というサイトにおいて、医科の臨床研修医に使用したケースが掲載されていた⁵⁾。非常に参考にはなったが、ポートフォリオを導入して円滑に活用できるようになるには、本学歯学部附属病院での臨床研修の実情に合わせた工夫が必要と思われた。本稿では本学歯学部附属病院におけるポートフォリオ導入から現在までの経験をまとめ、今後の方向性を検討した。

【著者連絡先】

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学歯学部附属病院総合診療科
大山 篤
TEL & FAX : 03-5803-5765 (呼出)
E-mail : a-ohyama.gend@tmd.ac.jp

ポートフォリオの導入から現在までの流れ

本学歯学部附属病院では、平成15年度に本学歯科臨床研修センターでポートフォリオの導入を検討し、平成16年度からポートフォリオを導入した。ポートフォリオの導入から現在までの流れを表1に示す。全ての年度で何らかの改訂を行っている

が、平成16年度のポートフォリオ導入時から現在まで、臨床研修センターでは研修歯科医へのポートフォリオに関する質問紙調査や指導歯科医への聞き取り調査を継続して行っており、その結果を毎年のポートフォリオの改訂に反映させたことを示している。ポートフォリオは研修歯科医や指導歯科医からのフィードバックを受けて常に進化し続けるものであり、研修プログラムや研修体制をふまえて必要な内容を取捨選択すべきである。以下にそれぞれの年度ごとに行われた具体的な改訂内容について説明する。

ポートフォリオのフォーマット作成 (平成15年度)

ポートフォリオに関する検討は、ポートフォリオ導入前の平成15年度から始められた。ポートフォリオに含めるべき内容については議論のあるところであるが^{6)~10)}、平成16年度に導入した当初の臨床研修歯科医のポートフォリオは、研修歯科医や指導歯科医にとってできるだけ敷居の低い、受け入れやすいものにしたかった。そのため、最初から多くのことは要求せず、研修歯科医がポートフォリオに自己評価や指導歯科医から受けた指導の内容、研修資料等を自由にまとめることを考えていた。しかし、ポートフォリオにまとめる内容を最初から全て研修歯科医に任せてしまうと研修歯科医によってポートフォリオの内容が相当に異なることが予想されたため、必ずポートフォリオに綴じ込む2種のフォーマットを作成した。それが「毎日の記録」と「1週間のフィードバック」である。

「毎日の記録」は研修歯科医が研修日に毎日1ページずつ記載するフォーマットである。臨床研

修歯科医が毎日の診療から得られた新しい知識や出来事、注意すべき点等について自分なりにまとめ、考察できるようになっている。「毎日の記録」が蓄積されれば、臨床の重要なポイントを集めたTipsが出来上がるので、後で振り返りを行ったときにも利用できる。また、このフォーマットは指導歯科医が臨床研修歯科医のポートフォリオを見て、臨床研修歯科医の受けてきた研修内容や到達度をその都度確認し、指導に活かせるようにすることも考慮されている。さらに「毎日の記録」は研修期間中に行われる面接にも使用し、臨床研修センターで研修歯科医の毎日の研修状況を把握するためにも活用する。

実際に「毎日の記録」を使用し始めてわかったことだが、研修が進むにつれて臨床研修歯科医にとって毎日の診療から得られる新しい知識や出来事は当然、少なくなってくるものである。そこでさらにポートフォリオに記載できるような新しい

表2 「毎日の記録」に含まれる内容

1. 1日の記録	時間 行ったこと 備考 コメント・気づいたこと
2. 診療の記録	時間 担当医 処置内容 保険点数 コメント・気づいたこと
3. まとめ	1. 今日新しく気づいたこと、出来たこと 2. 今日うまくいかなかったこと 3. 今の気持ち、考えたこと 4. 今後の課題、学びたい内容

表3 「1週間のフィードバック」に含まれる内容

表1 ポートフォリオの導入から現在までの流れ

1. ポートフォリオのフォーマット作成(平成15年度)
2. ポートフォリオの導入・改善点の抽出(平成16年度)
3. ポートフォリオのフォーマットの改良(平成17年度)
4. ポートフォリオへ指導歯科医からのコメントを依頼(平成18年度)
5. ポートフォリオの評価についての検討(平成18~19年度)

1. 今週、経験したこと
2. 自習したこと
3. 印象に残った出来事、気づいたこと
4. 今週の評価できる点
5. 今週の反省点
6. 来週の目標
7. その他
8. 備考

知識を吸収しようと注意深い観察を繰り返し行くと洞察力が鋭くなり、自己評価能力までもが養われてくるようである。

「1週間のフィードバック」は1週間分の「毎日の記録」のサマリーであり、毎週金曜日の研修後に臨床研修センターに提出する。いわゆる凝縮ポートフォリオ⁴⁾に相当し、臨床研修歯科医にとっては、その週の研修内容の復習になる。また、「1週間のフィードバック」が提出されることにより、臨床研修センターでも臨床研修歯科医の研修状況の概要が把握できるようになっている。当初の「毎日の記録」と「1週間のフィードバック」のフォーマットに含まれる内容をそれぞれ表2、表3に示す。これらのフォーマットは現在でも改良を加えながら使用している。

ポートフォリオの導入・改善点の抽出 (平成16年度)

平成16年度のポートフォリオ導入時には、まず、各外来の主任指導歯科医にポートフォリオの概要を説明し、コンセプトを知ってもらうことから始めた。ポートフォリオ導入時には指導歯科医にあまり負担をかけないよう、研修歯科医の作成するポートフォリオに対するコメント記載は積極的には求めなかった。しかし、指導歯科医にはポート

フォリオを必要に応じて見てもらいたいこと、また、研修歯科医がポートフォリオにまとめやすいように臨床上のポイントを指導してもらいたい旨を伝えた。しかし、各外来で臨床研修に関わる全ての指導歯科医に周知できたわけではなく、外来や指導歯科医によって指導内容にも温度差があったようである。

研修歯科医にも同様に研修開始時のオリエンテーションでポートフォリオのまとめ方についての説明、質疑応答を行った。研修歯科医にとってもポートフォリオをまとめるのは初めての経験であり、記載内容や綴じ込む書類の選別についても手探りの状態で行われていた。上記の理由から、ポートフォリオに記載する項目自体には研修歯科医間でそれほど差がなかったものの、記載内容については研修歯科医によってかなりの違いがみられた。各研修歯科医の研修への取り組み方とポートフォリオの概略評価はほぼ一致する印象であった。

平成16年度末に研修歯科医を対象に行ったポートフォリオに関する質問紙調査でも、ポートフォリオのさまざまな問題点が挙げられた。改善点を質的に評価するために作成した特性要因図では「記入形式」、「学習項目」、「時間的制約」に問題点が整理された(図1)。これらの項目は研修歯

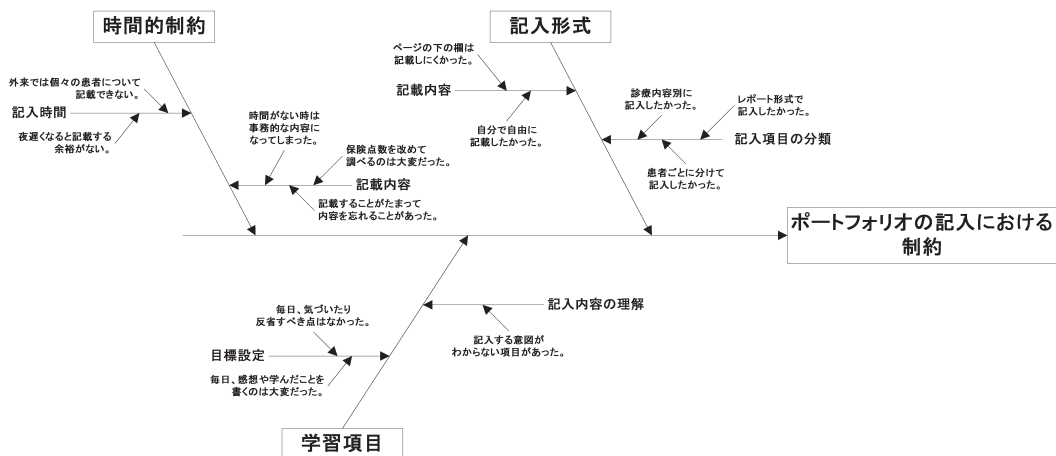


図1 ポートフォリオの記入における制約

科医がポートフォリオを記載するときの障壁となり得るため、詳細な検討が必要な項目と考えられた。

さらに研修歯科医の面接等を通じてわかったのは、「毎日の記録」のフォーマットで「2. 診療の記録」があまり活用されなかったことである。診療時間が処置内容の違いによってどの程度変わるのかを研修歯科医に知ってもらうログとしての役割を期待して設定した項目であったが、実際には時間をかけて事務的に記載するだけのものになってしまっていた。そのため、次年度からのポートフォリオではこの点を最優先に改善することにした。

ポートフォリオのフォーマットの改訂
(平成17年度)

平成16年度のポートフォリオの反省から、平成17年度開始前にポートフォリオの項目の見直しを行った。「毎日の記録」では前半部分を「1. 今日研修した症例」として、その日に体験した1症例について学んだことを記載し、後半部分を「2. 今日の振り返り」として、その日の研修を通じて体験したことをまとめるようにフォーマットを変更した(表4)。当初のフォーマット(表2)における「1. 1日の記録」や「2. 診療の記録」の部分を整理し、記載項目の簡略化をはかったためか、平成17年度末に研修歯科医を対象に行った面接でも、「毎日の記録」のフォーマットの記入形式が書きにくいという意見はかなり減少していた。ポートフォリオのフォーマットによって記載

表4 変更後の「毎日の記録」に含まれる内容

1. 今日、研修した症例
処置内容
症状の変化
コメント・気づいたこと
その他
2. 今日の振り返り
1. 今日新しく気づいたこと、出来たこと
2. 今日うまくいかなかったこと
3. 今の気持ち、考えたこと
4. 今後の課題、学びたい内容

しやすさが大きく変わることが理解できた。現在の「毎日の記録」はこの時に改訂されたフォーマットがベースになっている。平成16年度もポートフォリオのフォーマットは改訂中だったため、各研修歯科医のポートフォリオの評価は概略評価で行った。

ポートフォリオへ指導歯科医からの
コメントを依頼(平成18年度)

平成18年度から歯科医師臨床研修が必修化となった。平成17年度にポートフォリオのフォーマットがある程度固まってきたこともあり、これを機にポートフォリオにコメントを記載してもらえよう、指導歯科医に依頼することにした。具体的には「1週間のフィードバック」のフォーマットを表5のように変更し、指導歯科医からコメントやサインを受けたものを毎週、臨床研修センターに提出することとした。改訂後の「1週間のフィードバック」にはその週の目標と翌週の目標が含まれているため、研修歯科医が自分自身の目標を明確化しながら研修でき、指導歯科医もコメントを書く際に研修歯科医が目標としていることがわかる。それぞれの研修歯科医にあわせたオーダーメイドの研修を意識した変更である。

平成18年度は研修前期終了時の面接で、臨床研修センターの指導歯科医が個々の研修歯科医のポートフォリオを参考に、臨床研修への取り組みについてコメント・フィードバックを行った。また、「毎日の記録」の研修歯科医による記載内容の質の違いにも対応するため、ポートフォリオの記載内容についてもアドバイスをを行った。さらにローテート研修で歯科総合診療部にまわってきた研修歯科医には、担当する指導歯科医がポート

表5 変更後の「1週間のフィードバック」に含まれる内容

1. 今週の目標
2. 今週、新しく学んだこと
3. 印象に残ったこと、気づいたこと
4. 自分のよくできた点、反省点
5. 来週の目標
6. 指導歯科医からのコメント・サイン

フォリオにコメント・フィードバックを行い、研修歯科医がポートフォリオをまとめやすいように配慮した。

ポートフォリオの評価についての検討 (平成18～19年度)

平成15年度からポートフォリオを段階的に改訂し、利用しやすいように配慮してきたこともあって、平成18年度までにはポートフォリオの学内での認知度もかなり上がってきた。平成18年度からはポートフォリオを利用して研修歯科医の個別の目標に対応できるような、また、研修歯科医の受けてきた臨床研修の質の評価ができるようなポートフォリオの評価項目の検討を始めた。これはポートフォリオのフォーマットがある程度固まってきたからこそ、できることである。これから臨床研修内容の質が上がるにつれて、ポートフォリオの評価項目で要求される内容もより高度化するであろう。ポートフォリオは年々進化する。評価項目もずっと同じものを使用するのではなく、研修歯科医の目標の達成度や研修状況等に応じて今後もアップデートしていく予定である。

まとめ

本稿では臨床研修へのポートフォリオ導入の経験をまとめた。ポートフォリオに含めるべき内容については議論のあるところであるが^{6)～10)}、基本的には研修歯科医にとって使いやすく、1. 研修歯科医が自分の研修目標を明確にでき、その達成度について自己評価が行えること、2. 個々の研修歯科医が受けてきた臨床研修のプロセスと取り組み方が明らかになること、3. 指導歯科医が個々の研修歯科医のポートフォリオを見ることにより、研修歯科医に合ったオーダーメイドの研修

を考えられること、等が達成できなければならない。本学歯学部附属病院の臨床研修で利用しているポートフォリオは準備を始めてから4年が経過し、ポートフォリオのフォーマットもある程度落ち着いてきた。現在はポートフォリオの評価方法について検討しているところであるが、当初の目的である「研修目標がはっきり決まっている研修歯科医にとって、ポートフォリオが指導歯科医とのコミュニケーションを円滑にし、より研修歯科医自身の希望を研修に反映できるような」ポートフォリオの評価を考えていきたい。

文 献

- 1) 三省堂 ワードワイズ・ウェブ 10分でわかる「ポートフォリオ」<http://dictionary.sanseido.co.jp/topic/10minnw/039portfolio.html>
- 2) 田中耕治監訳：ポートフォリオをデザインする 初版1刷 ミネルヴァ書房、京都、2001.
- 3) 加藤幸次、安藤輝次：総合学習のためのポートフォリオ評価 初版8刷 黎明書房、名古屋、2001.
- 4) 鈴木敏恵：こうだったのか!!ポートフォリオ 初版第1刷 学習研究社、東京、2002.
- 5) 鈴木敏恵：鈴木敏恵の未来教育／ポートフォリオで変わる！医学教育と医療 <http://www.igaku-portfolio.net/>
- 6) Melville C, Rees M, Brookfield D, Anderson J: Portfolio for assessment of paediatric specialist registrars. *Med Educ* 2004 ; 38 : 1117-25
- 7) Cole G : The definition of 'portfolio'. *Med Educ* 2004 ; 39 : 1141
- 8) Rees C. : The use (and abuse) of the term "portfolio". *Med Educ* 2005 ; 39 : 436
- 9) Mathers NJ, Challis MC, Howe AC, Field NJ, Portfolios in continuing medical education - Effective and efficient? *Med Educ* 1999 ; 33 : 521-30
- 10) Hays RB : Reflecting on learning portfolios. *Med Educ* 2004 ; 38 : 801-3

Introduction of portfolio as daily records of clinical training

Ohyama A^{1, 3)}, Shimizu C¹⁾, Ohara S¹⁾, Nitta H²⁾
Araki K³⁾, and Mataka S^{1, 2)}

¹⁾ Oral Diagnosis and General Dentistry, Dental Hospital, Tokyo Medical and Dental University (Chief and Director : Prof. MATAKI Shiro)

²⁾ Behavioral Dentistry, Department of Comprehensive Oral Health Care, Division of Comprehensive Patient Care, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University (Director : Prof. MATAKI Shiro)

³⁾ Center for Education Research in Medicine and Dentistry, Tokyo Medical and Dental University (Director : Prof. ARAKI Kouji)

Key Words : portfolio, clinical training, cause-effect diagram

Portfolio is often used by fields of financial services, arts and educations. This system is appropriate to clarify objectives of each resident and evaluate himself in clinical training. In dental resident courses of Tokyo Medical and Dental University, we have introduced portfolio as daily records of clinical training from 2004. At first, there were some practical difficulties in our formats of portfolio, but we revised them year by year according to the results of the questionnaire surveys and interviews from residents and their advising doctor. Consequently, our formats of portfolio are settled in the present formats. Now, we consider evaluation items of portfolio based on the formats to incorporate the opinions of each resident.